

研究主題

「生きる力を育む稲作体験学習」～小中連携を通して～

1. 単元名 稲作体験学習

2. 指導観

- 本学級の生徒は、男子14名、女子15名の計29名であり、何事にも意欲的に取り組み、明るく活発な学級である。稲作体験学習を行う上で、生徒を主体とした稲作実行委員会を初めて立ち上げたところ多数の立候補者があり、これまでの取組を自分たちの手で作り上げようとする気持ちをもつ生徒が多い。10月には小中合同事前学習を体育館で実施し、実行委員が道具の使い方や稲の刈り方、結び方など、実際に道具を使って実践しながら説明を行った。グループ学習でも道具や写真などを使って小学生に分かってもらえるように言葉を選びながら説明をしている姿が見られた。また、小学生も一生懸命に聞く姿を見ることができた。この時間の交流が、その後の稲刈りの活動に生かされたと振り返っている。
- 八児校区は、山・川に囲まれた緑豊かな自然をもった地域である。農業に従事している家族をもつ子どもたちも見られる。昨今、この我々の生活を支える第1次産業への従事者が減少している中、これらの仕事の素晴らしさを子どもたちに気付かせるとともにこの自然を自分たちの手で残していこうという気持ちを育てることは大切なことである。「米」は言うまでもなく日本人の主食であり、様々な環境や文化に大きく影響を及ぼしている。食糧生産や食糧の確保、食の安全性などの今日的な問題も多く含んでいる。生徒の家庭では農業よりも他の産業に携わっているところが多いが、食糧生産にかかわるといってこれらの問題点への関心も高いものがある。「米」についてより詳しく学ぶことは、わたしたちを取りまく食や環境、外国との関係など多くの問題を身近なものとして考える契機になると思われる。また、実際に稲作を体験することは、食物に対する感謝の気持ちや働くことの尊さなどを感じ取れる貴重なものであり、これからの生徒の生活に少なからずよい影響を与えるものと考えられる。本単元では「米」という身近な素材を通して、自分自身だけでなく地域社会や日本、外国など視野を広げて考えられていくものである。更に、農業に従事する人たちの工夫や苦勞を身近なものとして感じることができるとともに、植物の生態調査や稲の生育の様子を観察、収穫した米の使途など、様々な面で生徒たちの主体的な活動が期待できるものである。代掻き・田植え・稗取り・稲刈り等の体験は、地域の方々とともにを行った。このように地域との連携を図りながら、連続的かつ発展的な学習活動を行うことも大切である。様々な体験活動や地域の方々との関わりから、豊かな自然に囲まれた八児の良さを理解し、自分たちの手で未来に残していこうとする気持ちをもたせたいと考え、本単元を設定した。
- 指導にあたっては、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」となる探究のプロセスに沿った指導を行う。「課題の設定」では、問題発見を促すための体験的活動を位置づけ、教師や地域の方々側からの問題提示など、生徒が関心や疑問をもち、さらに追究したいと思えるような問題との出会わせ方について工夫する。「情報の収集」「整理・分析」では、その問題の解決のための情報を教師や地域の方々の話や文献、インターネット等を使って、より多くの情報を収集させ、それを分析させる。「まとめ・表現」では、体験で感じたことや調べた結果をレポートや新聞、ポスターにまとめたり、写真やグラフ、図などを使ってプレゼンテーションとして表現させたりする。その際、だれに何を伝えるのかという相手意識をもたせるとともに、聞き手側にも相手が伝えたいことや相手の発表の優れた点など自分の発表と比較しながら聞くことができるようにする。

### 3. 本単元における主体的・対話的で深い学び・学習評価の工夫

#### ○ 主体的・対話的な学びの工夫について

「探究課題の設定」の場面や「情報の収集」・「整理・分析」の場面、「まとめ・表現」の場面それぞれで、グループによる「話し合い活動」を取り入れる。「話し合い活動」において自分の意見を主張したり、他者の意見を聞き入れ自分の考えに取り入れたりすることで、自ら学ぶ主体的な学習へと結びつけ、次の活動への意欲につなげていく。

#### ○ 学習評価の工夫について

自己の考えや表現の変容を自覚させ、自己評価の力の育成のために、体験や話し合いの後にはワークシートに感想を記入させる。その際に、一人一人の思いを大切にするために自由記述とし、自分の体験の意味づけをしたり、次の活動への見通しをもったりできるようにする。また、ワークシートから生徒の思いや願いを知り、朱書きなどで、一人一人の意識に沿った支援ができるように努める。さらに、学習活動の過程や成果などの記録を計画的に集積するなど、パーソナルポートフォリオによる個人能力の総合的な質的評価も行う。

### 4. 特別な教育的支援を要する児童・生徒に対する指導上の工夫と手だて

**別紙参照** ※別紙については、協議会后、回収します。

### 5. 目標

課題解決に向けた学習への 関心・意欲・態度 【関】	○ 学習内容に関心をもち、意欲的に調べ、進んで学習に取り組もうとする。 ○ 稲を育てたり、米や日本食文化のよさを多くの人に発信したりすることについて、自分なりの課題をもち、解決しようとする。
学び方・表現する力 【学】	○ 課題探究の計画を立て、自分なりの手段を選び、最後までやりきることができる。 ○ 課題について調べたことを基にして、様々な方法で自分の考えをまとめることができる。
他者や社会との関わり 【他】	○ 課題を解決するために必要な情報を選択・活用し、相手の考えを認めたり自分の考えに取り入れたりして、深い学びにつなげようとすることができる。

### 6. 指導計画と評価計画（総時数 12 時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
1. 課題の設定 ③ <ul style="list-style-type: none"> <li>稲作に関するアンケート結果や地域の方からの講話等から稲作に対する関心を高める。</li> <li>昨年度までの体験活動を基盤に何が課題であるのか、どのように活動を行っていくのかを考える。</li> <li>KJ法を利用し、自分たちが取り組みたいことや調べたいことを整理し、探究課題を設定する。</li> </ul>	○ 稲作体験活動に関するこ とで、自ら課題を見いだす ことができるようにする。	【関】アンケート結果を通し て、稲作に関して自分の課 題を設定している (様相観察) 【関】課題解決に向けて、意 欲的、主体的に取り組んで いる。 (様相観察・ワークシ ート分析)

<p>2. 情報の収集 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネットや文献などから稲作活動全般の情報を収集する。</li> <li>・ 地域の農家の方や農協の職員の方等にインタビュー調査を行う。</li> <li>・ 昨年度までの稲作体験学習からアンケートを利用して情報を収集する。</li> </ul>	<p>○ 課題解決に必要な情報をどのように得ることができるか考え、見通しを持った情報収集をし、多角的・多面的に分析できるようにする。</p>	<p>【関】 課題解決に向けて、意欲的、主体的に取り組んでいる。 (様相観察)</p> <p>【学】 課題解決に必要な情報を収集している。 (ワークシート分析)</p>
<p>3. 情報の整理・分析 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの体験した内容や資料等を図や表などを利用して整理する。</li> <li>・ 「考えるための技法」を活用して、情報を分類したり、比較したりするなどの整理・分析し、自分たちができることを考える。</li> <li>・ 「話し合い活動」の中で、各グループの発表会を行い、意見を集約して修正案を考える。</li> </ul>	<p>○ 「話し合い活動」を通して、相手の考えを理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができるようにする。</p>	<p>【他】 意見を尊重し、お互いに考えを深め合い、協働的に問題の解決をしている。 (様相観察)</p> <p>【学】 収集したその情報を多角的、多面的に分析している。 (ワークシート分析)</p> <p>【関】 情報の整理・分析に向けて、意欲的、主体的に取り組んでいる。 (様相観察)</p> <p>【他】 他者の意見や考えを受け入れるとともに、自分の考えを正確に伝えている。 (様相観察)</p>
<p>4. まとめ・表現 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲作体験学習の総括を行い、「自分たちでできたこと」「自分たちができること」を確認する。</li> <li>・ 稲作体験学習で学んできたことを新聞にまとめ、自分の学級や他学年、地域の方に発信する。</li> </ul>	<p>○ 情報収集した内容や自分の考えを、相手や目的に応じてわかりやすく説明できるようにする。</p>	<p>【学】 収集した内容や自分の考えを分かりやすく、まとめ、表現している。 (発表・様相観察)</p> <p>【他】 意見を尊重し、お互いに考えを深め合い、協働的に問題の解決をしている。 (様相観察)</p> <p>【関】 活動を通して、次の課題を見つけだそうとしている。 (様相観察)</p>

6. 本時の学習 平成29年11月30日(木) 第5校時 図書室

- (1) 主眼 稲作体験学習を振り返る活動を通して、「生きる力」を育むことができるようにする。
- (2) 準備 パソコン, スクリーン, 模造紙, ペン, 付箋(赤, 青, 黄), ホワイトボードなど
- (3) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価基準(評価方法) ★ 特別な教育的支援を要する児童・生徒への特に困難とされる場面での支援のポイント
1. 本時のめあてを確認する。	○ 本時の流れを提示し, 稲作体験学習の振り返りについて, 見通しをもつことができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて これまでの稲作体験学習を振り返ろう。</div>	
2. これまでの稲作体験学習を映像・写真で振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学校の稲作体験学習の振り返りでは, 稲作実行委員を中心に, これまでの取組について映像や写真もとに全体に発表し, 振り返ることができるようにする。</li> <li>○ 小学校の稲作体験学習の振り返りでは, グループを3つに分けて, 紙芝居形式でそれぞれ発表し, 振り返ることができるようにする。</li> </ul>
3. 稲作体験学習についてよかった点, 反省点, 改善点を話し合い, 発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 個人で考える時間を十分に確保し, 良かった点, 反省点, 改善点について, できるだけ多くの考えがでるようにする。</li> <li>◎ それぞれ付箋紙に考えを書いて, 模造紙にはりながら KJ 法により整理・分類してまとめることができるようにする。</li> <li>★ 個人で考える段階で表現が難しいことが予想されるため, これまでの活動を改めて振り返らせた後, 付箋にキーワードだけでもいいので書くよう助言する。</li> <li>【他】班で協力して&lt;よかった点&gt;&lt;できなかった点&gt;&lt;改善点&gt;などに班員の意見を参考に分類して, 模造紙にまとめている。 (発言分析, 様相観察)</li> </ul>
4. 本時の振り返りを行い, 収穫祭に向けた取組を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各グループで良かった点, 反省点, 改善点をまとめた模造紙を活用して, 本時の振り返りができるようにする。</li> <li>○ 小学生が授業で作成した収穫祭の提案書をもとに, 次時の学習(収穫祭)の見通しをもつことができるようにする。</li> </ul>

ご指導よろしくお願いたします。 八児中学校職員一同

<別紙>

取扱注意

※ 協議会終了後、回収します。**持ち帰り厳禁**

#### 4. 特別な教育的支援を要する児童・生徒に対する指導上の工夫・手だて

##### ○ 指導上の工夫について

特別支援学級に在籍するAは、普段のクラスメイトともコミュニケーションをとることができるが、話し合い活動を行う際は、今何をしているのかをサポートし、話し合い活動に参加できるようにする。

特別支援学級に在籍するBは、自分から話をしていくことができないので、質問をしながら、活動の振り返りをさせる必要があると考える。サポートできる実行委員を班員にして、活動の参加を促していけるようにする。

##### ○ 学習評価の工夫について

2人については、各時間で記入する学習後の気づきや感想、グループ活動での発言を中心に評価する。特に、これまでの取組で自分自身の成長を振り返ることができたことを評価する。

研究主題

総合的な学習の時間における探究的な学習の指導と評価のあり方  
～地域の特色を生かした八児学びプロジェクトの推進～

1. 単元名 稲作と産業（第6次産業の視点から）

2. 指導観

- 八児校区は、山・川に囲まれた緑豊かな自然をもった地域である。昨今、この我々の生活を支える第1次産業への従事者が減少している中、これらの仕事の素晴らしさを子どもたちに気付かせるとともにこの自然を自分たちの手で残していこうという気持ちを育てることは大切なことである。

「米」は言うまでもなく日本人の主食であり、様々な環境や文化に大きく影響を及ぼしている。食糧生産や食糧の確保、食の安全性などの今日的な問題も多く含んでいる。食糧生産にかかわるといふ点で、これらの問題点への関心も高いものがある。

「米」についてより詳しく学ぶことは、わたしたちを取りまく食や環境、外国との関係など多くの問題を身近なものとして考える契機になると思われる。また、実際に稲作を体験することは、食物に対する感謝の気持ちや働くことの尊さなどを感じ取れる貴重なものであり、これからの生徒の生活に少なからずよい影響を与えるものと考えられる。本単元では「米」という身近な素材を通して、自分自身だけでなく地域社会や日本、外国など視野を広げて考えられていくものとする。

更に、農業に従事する人たちの工夫や苦労を身近なものとして感じることが出来る。また、植物の生態調査や稲の生育の様子の観察、収穫した米の用途など、様々な面で生徒たちの主体的な活動が期待できるものである。代掻き・田植え・稗取り・稲刈り等の体験は、地域の方々とともに生徒主体の中で行っている。このように地域との連携を図りながら、連続的かつ主体的な学習活動を行うことも大切である。様々な体験活動や地域の方々とのかかわりから、豊かな自然に囲まれた八児の良さを理解し、自分たちの手で未来に残していこうとする気持ちをもたせたいと考え、本単元を設定した。

- 本学級の生徒（男子16名、女子12名の計28名）は、真面目にかつ真剣に学習及び学校行事等に取り組む生徒が多く、平素から意欲的に授業に臨む雰囲気をもっている。特に本校独自の『稲作体験学習』に向けては2年次から「稲作実行委員会」を立ち上げ、その4名の生徒を中心にして企画・運営を行い、これまでの取組を自分たちの手で作り上げようとする気持ちをもつ生徒が多数いる。今回は文化発表会の練習と同時並行で、「稲作と産業」のまとめの学習を行うなかで、各班それぞれがパソコンに向かい、一生懸命に努力している姿が見受けられた。

本学級の生徒は、各教科の授業での話し合い活動の成果が表れ、自分の意見を考えたり表現したりすることが、少しずつではあるが上達している。しかしながら、資料を基に考察、追究したり他者の意見と比較しながら自分の意見を述べることは苦手であるように思われる。そこで、技術・家庭科で学んだパワーポイントを取り入れた稲作体験の総括となる学習を通して、自分と同じ考え、違う考えを取り入れながら、様々なことを考察し、実践できるように指導していきたい。

- 以上の単元や生徒の実態を踏まえて次のように指導する。

(1) 探究のプロセスの在り方について

① 課題設定の工夫〔課題追究能力の育成〕

問題発見を促すために社会科の授業で「米」と「産業」の関連性を位置づけ、教師や地域の方々からの問題提示など、生徒個人が関心や疑問をもち、さらに追究したいと思えるような問題との出会わせ方について工夫する。そして、同様の課題を設定した生徒のグループを形成し、グループの課題へと移行していく。

② 情報の収集、整理・分析の工夫

その問題の解決のための情報を教師や地域の方々の話、株式会社「もち吉」の社員の講話、農業科のある高校の出前授業、文献やインターネット等を使って、より多くの情報を収集させ、それを分析するための「話し合い活動」を様々な形態で充実させる。

③ まとめ・表現の工夫〔思考力・表現力の育成〕

体験で感じたことや調べた結果をレポートや新聞、ポスターにまとめたり、写真やグラフ、図などを使ってプレゼンテーションとして表現させる。その際、だれに何を伝えるのかという相手意識をもたせるとともに、聞き手側にも相手が伝えたいことや相手の発表の優れた点など自分の発表と比較しながら聞くことができるようにする。

(2) 実態把握と評価の工夫

① 自己の考えや表現の変容を自覚させる評価の工夫〔自己評価の力の育成〕

レクチャーや話し合いの後にはワークシートに感想を記入させる。一人一人の思いを大切にするために自由記述とし、自分の体験の意味づけをしたり、次の活動への見通しをもったりできるようにする。また、ワークシートから生徒の思いや願いを知り、朱書きなどで、一人一人の意識に沿った支援ができるように努める。

② 生徒・保護者の意識調査とその変容の把握

活動の事前・事後には生徒を対象に意識調査やスクールプランのアンケートによる調査を実施し、その結果の分析を行い、変容を把握し、さらに充実した活動にするために改善を図る。また、学校評価のアンケート調査の中で保護者の願いや要望を把握する。

### 3. 単元の概要

(1) 単元の目標

- ・ 学習内容に関心をもち、意欲的に調べ、進んで学習に取り組もうとする。  
(学習への意欲)
- ・ 米や日本食文化のよさや多様性を多くの人に発信したりすることについて、自分なりの課題をもつことができる。  
(課題発見力)
- ・ 課題探究の計画を立て、自分なりの手段を選び、最後までやりきることができる。  
(課題探究力)
- ・ 課題を解決するために必要な情報を選択・活用し、相手の考えを認めたり、自分の考えに取り入れ、深い学びにつなげようとするすることができる。  
(収集力、分析力)
- ・ 課題について調べたことを基にして、様々な方法で自分の考えをまとめる。  
(表現力)
- ・ 自分の成長や仲間のよさを認める  
(評価力)
- ・ 活動を通して、次の新しい課題を設定し、それを探求しようとする。  
(学習に向かう力)

(2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

ア 稲作体験活動を行うことで、米への興味を示し、産業との関連について、自らの課題を見いだす。

イ 課題解決に必要な情報を、どのように得ることができるかを考え、見通しを持って情報収集をする。また、多面的・多角的に分析し、それらを整理する。

ウ 情報収集した内容や自分の考えを,相手や目的に応じてわかりやすく説明する。

【自分自身に関すること】

エ 課題解決に向けて,意欲的,主体的に取り組む。

オ 活動を通して,次の課題を見つけ出そうとしている。

【他者や社会との関わりに関すること】

カ 「話し合い活動」を通して,相手の考えを理解し,相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝える。

キ 協働的に問題の解決を行う。

(3) 単元の評価の規準

	学習方法	自分自身	他者や社会との関わり
単元 の 評 価 規 準	① 米と産業の関連について自分の課題を設定している。【(2) -ア】 ② 課題解決に必要な情報を収集し,その情報を多面的・多角的に分析している。【(2) -イ】 ③ 収集した内容や自分の考えを分かりやすくまとめ,表現している。【(2) -ウ】	① 課題解決に向けて,意欲的,主体的に取り組んでいる。【(2) -エ】 ② 活動を通して,次の課題を見つけだそうとしている。【(2) -オ】	① 他者の意見や考えを受け入れるとともに,自分の考えを正確に伝えている。【(2) -カ】 ② 意見を尊重し,お互いに考えを深め合い,協働的に問題の解決をしている。【(2) -キ】

4. 指導・評価計画

過程	時数	学習活動	評価規準及び方法	
課題設定	3	○ 稲作に関するアンケート結果や稲作体験活動等から稲作に対する関心を高める。 ○ 第6次産業をキーワードに,米との関連がどのように存在しているのかを考える。 ○ KJ法を利用し,自分たちが取り組みたいことや調べたいことを整理し,探究課題を設定する。	学① 自①	行動観察 発言観察 ワークシート (付箋紙等含む)
情報収集	3	○ パソコンや文献などから第6次産業の視点に関連した米についての情報を収集する。 ○ 株式会社「もち吉」の社員のレクチャーや農業科の高校先生の出前授業から自分たちの課題に適した情報を収集する。	学② 自①	行動観察 ワークシート
整理・分析	3	○ 「考えるための技法」を活用して,情報を分類したり,比較したりするなどの整理・分析を行い,自分たちができることを考える。 ○ 「話し合い活動」の中で,各グループの発表会を行い,意見を集約して修正案を考える。	学② 自① 他① ②	行動観察 ワークシート
まとめ・表	3	○ 整理・分析した結果から「自分たちでできたこと」「自分たちができること」をまとめる。 ○ 自分たちの探究課題の解決のために,根拠を示して,自分の学級やグループ,後輩に発信する。	学③ 自② 他①	行動観察 ワークシート



現	○ 米と産業の関連についての総括後，新しい課題を設定し，確認する。	②
---	-----------------------------------	---

5. 本時の学習 平成30年12月5日(水) 第5校時 図書室

- (1) 主眼 稲作と産業の関連について調べたことを発表し、質疑応答する活動を通して、次の探究課題を見つけ、設定することができるようにする。
- (2) 準備 パソコン スクリーン（必要に応じて模造紙 ホワイトボード等）
- (3) 展開

主な学習活動・内容	○指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(方法) ★教育的支援を要する生徒への留意
1. 今年度の稲作体験活動についての振り返りを行う。	○ 年間の体験を映像で振り返ることにより、アンケート結果のまとめ等を視覚的に理解できるようにする。 【学①自①】（態度・表情）
2. 本時のめあてを確認し，各班の課題（テーマ）を発表する。	○ 稲作実行委員の指示により、発表者が主体的に進めることができるようする。 【学①自①】（態度・表情）
めあて 稲作と産業の関連について，各グループで調べたことを発表し，さらなる課題を見つけよう。	
3. 各班の課題（テーマ）について調べたことを発表する。	◎ 発表に対しての質問及び意見に関しては，個ではなくグループで考える時間をとることにより，対話的な活動の充実を図るようにする。 ★ 授業者及び学年職員が机間巡視し、助言及び支援することにより、発表や話し合いの内容を理解できるようにする。 【自①他①②】（発表内容・態度・表現方法）
4. 班に出された質問や意見を基に、次の課題を見つけ設定する。	○ 質問や意見等が与えられなかったグループは自分たちの発表を振り返ることにより，次の課題の設定ができるようにする。 【自②他①②】（振り返りシート）
5. 本時の授業の振り返りを行い，収穫祭に向けた取り組みを確認する。	○ 今までの取り組みについて振り返りを行うことにより，最後の行事になる収穫祭に向けて志気を高めることができるようにする。

ご指導のほどよろしくお願いいたします。